

I 研究主題

自己を見つめ、よりよい生き方を目指す道德の時間の研究
～生徒の心に響き、思いや考えを伝え合う指導方法の工夫を通して～

II 主題設定の理由

現代社会は科学技術が大きく発展し、物質的に豊かで便利な生活を手に入れた反面、人々が社会生活を営む上で大切な規範意識が低下したり、人間関係が希薄化したりする傾向が見られる。子どもたちを取り巻く環境も犯罪の低年齢化をはじめとして、痛ましい事件や事故が多発する傾向にある。これらの背景には、社会全体のモラルの低下や子どもたちの社会体験や生活体験の不足、家庭や地域の教育力の低下といったことも大きく影響していると言われている。このような現状の中、子どもたちが心豊かにたくましく生きるために、学校における道德教育はますます重要となってくる。また、改定案が公表された新学習指導要領においても「基本的な生活習慣や最低限の規範意識、自分への信頼感や思いやりなどの道德性を養い、法やルールの意義や遵守について理解し、主体的に判断し、適切に行動できる人間を育てるために、発達の段階に応じた指導内容の重点化、教材の充実、体験活動の充実、家庭や地域との役割分担が必要である」として、道德教育のより一層の充実が求められている。とりわけ、道德教育のかなめとなる道德の時間においては、子どもの実態や指導上の課題をふまえ、指導の効果が上がるようにその役割を十分に果たさなければならないと考えられる。

研究実践校である三股町立三股中学校では、「人間尊重の精神に徹し、体・徳・知の調和のとれた人間性豊かにたくましく生きる生徒の育成」を教育目標に、また道德教育の目標として「他人に対する思いやりの心と、温かい人間愛を育て、道德的実践力の高揚に努める」を掲げ、教育活動に取り組んでいる。生徒たちも毎日を落ち着いて生活し、部活動や生徒会活動をはじめとして活発な取組をしている。しかし、中には生活における自分自身の問題に対してねばり強く立ち向かえなかつたり、時として他者に反発的な態度をとったりする面も見受けられる。また、道德の時間においては、自己の内面まで深く探ることができず、思いや考えを表現できずにいる生徒が少なくない。そのために、自己を振り返ったり将来を考えたりという行為が不十分で、道德的実践力に結びついていない面も見受けられる。このことは、教師の指導にも課題があると考えられる。これらを改善するためには、道德教育や道德の時間の在り方について見直すこと、特に道德の時間においては生徒の道德性の発達を促すために、指導過程や学習活動の工夫をすることが必要である。

このようなことから、学校の抱える道德の時間の課題解決を図ることが、道德教育の目指すものにもつながると考えた。そこで本研究においては、生徒の心に響く効果的な資料の活用の仕方や、生徒が人間としてよりよい生き方を探ることのできるような指導方法を工夫することで道德的実践力に結びつくと考え、本主題を設定した。

III 研究の仮説

道德の時間において、生徒の心に響く資料の効果的な活用や、思いや考えを伝え合い自分の生き方を見つめ直す指導方法を工夫すれば、一人一人の生徒が道德的実践力を身に付けるであろう。

IV 研究の全体構想

諸法令，関係法規 県・町教育委員会の 基本方針	三股中学校の教育目標 人間尊重の精神に徹し，体・徳・知の調和の取れた人間性豊かにたくましく生きる生徒を育成する。	学校・生徒の実態 保護者・地域・教師の願い 社会の要請
学校の道徳教育目標		
他人に対する思いやりの心と，温かい人間愛を育て，道徳的実践力の高揚に努める。		
研究主題		
自己を見つめ，よりよい生き方を目指す道徳の時間の研究 ～生徒の心に響き，思いや考えを伝え合う指導方法の工夫を通して～		
研究仮説		
道徳の時間において，生徒の心に響く資料の効果的な活用や，思いや考えを伝え合い自分の生き方を見つめ直す指導方法を工夫すれば，一人一人の生徒が道徳的実践力を身に付けるであろう。		
研究内容		
1 実態に応じた資料選択や資料分析 ○ 心に響く魅力的な資料選定と分析 ○ 資料の魅力を引き出す効果的な活用 ・ 効果的な資料活用の方法について	2 思いや考えを伝え合い，自分の生き方を見つめ直す指導方法 ○ 学習指導過程の工夫 ○ 学習活動の工夫 ・ 書く活動について ・ 話し合い活動について	

V 研究経過

月	研究内容	研究事項	研究方法
4	研究計画の作成 理論構築	研究主題・仮説等の設定，研究計画書の作成 資料収集	理論研究
5	理論構築	資料収集，実態調査項目の作成・検討	理論研究
6	実態調査及び分析 検証授業Ⅰの準備	生徒・教師の実態調査と分析 検証授業Ⅰの準備	理論研究 調査研究
7	検証授業Ⅰの実施と授業分析	検証授業Ⅰの実施と授業分析・考察	検証授業
8	検証授業Ⅱの準備	検証授業Ⅱの準備	理論研究
9	検証授業Ⅱの準備 理論の再構築	検証授業Ⅱの準備 中間発表を受けての理論の再構築	理論研究
10	検証授業Ⅱの実施と授業分析 検証授業Ⅲの準備	検証授業Ⅱの実施と授業分析・考察 検証授業Ⅲの準備	検証授業 理論研究
11	検証授業Ⅲの実施と授業分析 実態調査及び分析	検証授業Ⅲの実施と授業分析・考察 生徒の実態調査と分析	検証授業 調査研究
12	研究のまとめ	研究のまとめ，研究報告書の作成	理論研究
1	研究のまとめ	研究のまとめ，研究報告書の作成	理論研究
2	研究のまとめ 研究発表会の準備	研究のまとめ 研究発表会の原稿・プレゼンテーション作成	理論研究
3	研究発表会の準備，研究発表 今後の研究計画	研究発表会の準備・研究発表 研究を受けての今後の計画	理論研究

VI 研究の実際

1 研究の基本的な考え方

(1) 研究主題について

ア 「自己を見つめる」とは

道徳の時間に、生徒は資料にかかっている登場人物の生き方を通して、発問に対し、考えたり話し合ったりする。資料を通しての話し合いではあるが、生徒がもつ考えはこれまでの自分の経験からくるものである。資料を通して生徒の意識は自分自身の内面に向かい、これまでの自分を振り返ったり、学級での話し合いを通して他の生徒の考えと自分の考えを比べたりして、絶えず自分自身と向き合っているのである。ひいては、これまでの自分自身を振り返ることで、ねらいとする価値について、これまでの自分はどうかであったのかを深く見つめ直すことになる。さらには、人間のよりよい生き方・在り方として自分はどうかありたいかという思いも生まれる。このように、これまでの自分を振り返ったり、これからの生き方を考えたりすることを「自己を見つめる」ととらえた。

イ 「よりよく生きる」とは

自己を深く見つめることで、自分自身の課題に気付く。そのような気づきが、自分自身の課題を解決していきたいという思いに結びついていくと考えられる。解決していく過程や解決できたと感じることで自信につながり、他者に認められたいという思いや役に立ちたいという思い（自己有用感）にも発展していく。また、それらの経験や思いは、他者を理解し受け入れようとする心（他者理解）にもつながると考えられる。こういった変容を通し、自己実現をしながら人としてのよりよい生き方・在り方を探り、実践していこうとする姿を「よりよく生きる」ととらえた。

ウ 道徳の時間の役割

学校における道徳教育の役割は、教育活動全体を通じて行われるものである。とりわけ道徳の時間は、各教科や特別活動、総合的な学習の時間などで行われる道徳教育のかなめとしての役割を担っている。道徳の時間の目標を、学習指導要領では以下のように述べている。

道徳の時間の目標

他の教育活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し道徳的価値及び人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する。（中学校学習指導要領 解説 道徳編）

また、目標に述べてある道徳的実践力とは、道徳的価値を一人一人の子どもたちが自分の内面から自覚し、これから出会う様々な場面や状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質ととらえる。

道徳的価値の自覚については、発達段階に応じて多様に考えられるが、中学校学習指導要領解説道徳編では、以下の3点が示されている。

- 道徳的価値そのものに対する理解
- 自分とのかかわりにおいて道徳的価値をとらえること
- 道徳的価値を自分なりに発展させようとする思いや課題を培うこと

道徳的実践力が育つことによって、より確かな道徳的実践ができるようになる。そ

のような道徳的実践を繰り返すことによって、内なる道徳的実践力も高まると考えられる。道徳的実践と道徳的実践力は相互に関連し合っている。したがって生徒が望ましい道徳的実践を行うには、確かな道徳的実践力が身に付いていなければならない。その確かな道徳的実践力を身に付けさせ、育成を図るのが「道徳の時間」である。

2 実態調査と分析

(1) 内容項目に関する意識調査

研究実践学級において、生徒は日常生活の中でどのような道徳性に関する意識をもっているかを調査した。この調査によって、何を望ましい価値としているか、道徳的実践力を育成を図る上での課題は何かを明らかにすることにした。【資料1】が実施したアンケートである。また、アンケート調査の結果は道徳の時間の在り方に反映させることとした。

※ 第1回目実施

平成19年6月 2年生38名

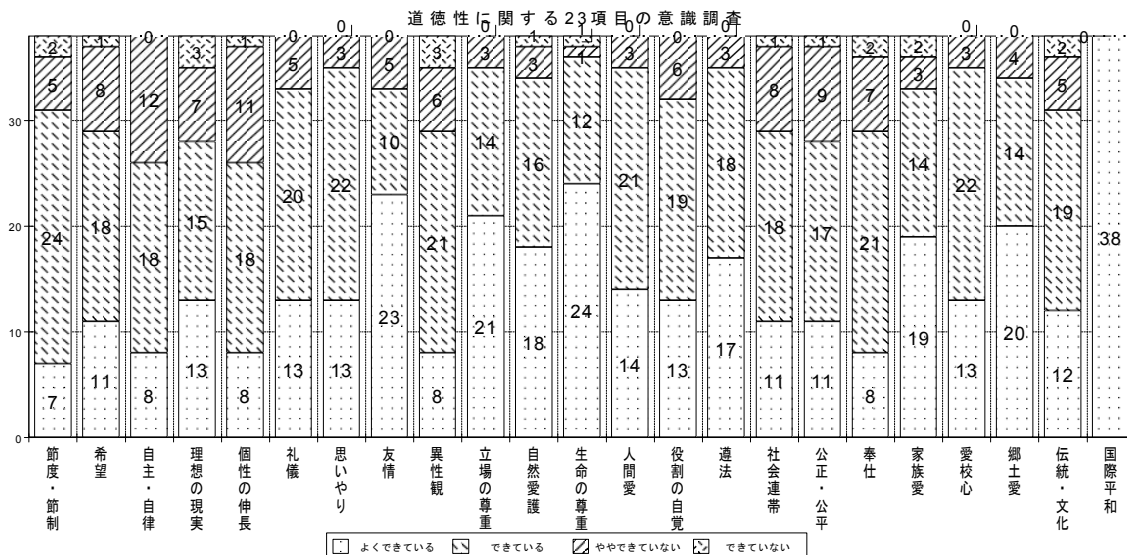
アンケート実施学級は、本研究における追跡学級とする。

※ 調査項目

「中学校学習指導要領 解説道徳編 第2章第3節『内容項目の指導の観点』」を基に設定した。調査項目のチェック方法は〔A：よくできている B：できている C：ややできていない D：できていない〕とし、自己評価方式である。

番号	質問内容 (※ 質問内容にある()の項目は、生徒の用紙には記入していない。)
①	望ましい生活習慣(早寝早起き, 時間を守るなど)が身に付いている。(節度節制)
②	何事も高い目標に向かって努力している。(希望)
③	物事に取り組むときには自分で考え判断し, 問題に対しては自分の力で解決する。(自主・自律)
④	自分の将来に対して理想や夢をもち, 実現させたいという思いで努力している。(理想の実現)
⑤	自分らしさを知り, 自分をさらによくしようと努力している。(個性の伸長)
⑥	時と場に応じた適切な言葉遣いやあいさつができ, 礼儀正しくしようとしている。(礼儀)
⑦	他の人に対して感謝と思いやりの心をもつようにしている。(思いやり)
⑧	心から信頼できる友人がいて, 互いに認め, 高め合おうとしている。(友情)
⑨	異性に対して理解をもち, 協力して生活している。(異性観)
⑩	誰もがそれぞれの個性や立場があると考えている。(立場の尊重)
⑪	自然を大切にし, 環境を守ろうとしている。(自然愛護)
⑫	自分や他の人の命の尊さを理解し, かけがえのないものとして扱っている。(生命尊重)
⑬	誰にでも弱さがあることを理解し, それを受け止めようとしている。(人間愛)
⑭	係活動などの役割に対して自覚と責任をもち, 学級や部活動などの集団がさらによくなるように努めている。(役割の自覚)
⑮	社会生活のルール(交通や公共の場でのマナーなど)を守っている。(遵法)
⑯	地域の住民の一人であることを理解し, 地域の方と協力して生活している。(社会連帯)
⑰	誰に対しても公平に接し, 差別をしていない。(公正・公平)
⑱	ボランティア活動に対して興味や関心がある。または, 活動している。(奉仕)
⑲	家族を大切にし, 協力して生活している。(家族愛)
⑳	学校や学級の一員としての自覚をもち学習や行事に取り組んでいる。(愛校心)
㉑	三股町の住民として, 三股町のよさを理解している。また, 三股町が好きである。(郷土愛)
㉒	日本のよさや歴史, 文化を大切にしたいと思っている。(伝統・文化)
㉓	世界全体が平和で誰もが幸せに暮らせるとよいと思っている。(国際平和)

【資料1 道徳性に関する23項目の意識調査】



【グラフ1 道徳性に関する23項目の意識調査】

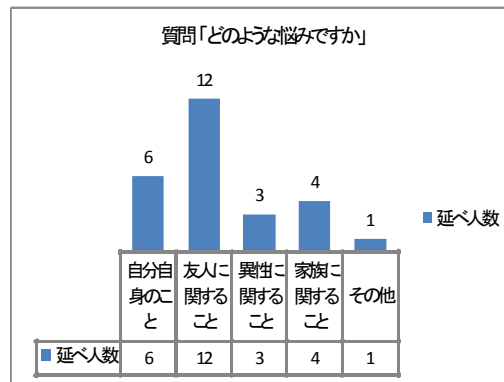
調査結果は、上掲の通りである。なお、グラフの項目は、代表的な主題名で表した。(グラフ中の単位は人) 意識調査では、「自主・自律」「理想の実現」「個性の伸長」「公正・公平」の項目で、「ややできていない・できていない」と答えたものが10名以上であり、他と比較するとできていないと感じている生徒が多い。このことは、家庭や地域の教育力の低下や社会全体のモラルの低下、社会体験や自然体験が少ないことなどが反映していると考えられる。またそのような環境の中で、生徒は自己有用感や自己実現の喜びを味わったり、他者理解の心を育んだりすることは難しいと考える。中学生の時期は、一般的に自らの将来についての関心が高まり、自分の人生をよりよく生きたいと意識すると同時に、思春期という心身ともに不安定な時期でもある。このような不安定な時期にある生徒に対し、人間的な成長の支えとなるような道徳教育の充実は欠かせない。

追跡学級においても、38名のうち16名が「悩みがある」と答え、それらは【グラフ2】の内容である。一番多く挙げられてた「友人に関すること」では具体的に「信頼できる友人がいない」といったことを挙げている。

また「自分自身に関すること」では「勉強のこと」や「進路のこと」が多かった。

「家族に関すること」では「思うようにいかない成績について、家族に注意される」といったことを挙げている。

生徒たちは友人に関することや家族に関すること、また自分自身に関すること等、様々な悩みを抱えていることが分かった。悩みの背景には「自分の将来に夢や希望をもってよりよく生きたい」「豊かでよりよい人間関係をつくりたい」ということがあると考えられる。道徳性の意識調査では低い結果となっている項目も、生徒の心情には何事も向上したいという思いがあるのではないか。表面的で一面的な姿だけに目を奪われることなく自己探求して、自己確立への模索の姿として受け止めることが大事である。そのような生徒たちにとって、学校における道徳教育の果たす役割は大きいものと言える。



【グラフ2 現在の悩みについて】

(2) 道徳の時間に関する意識調査

道徳の時間が生徒にとってよりよい生き方を探求する時間となるためには、充実したものでなくてはならない。そのために、生徒が道徳の時間についてどのように感じ、どのような道徳の時間を求めているか把握する必要がある。

調査の結果、「道徳の時間が、好きである」や「道徳の時間は楽しみである」と答えた生徒が過半数を超えていた。他の教科では活発に意見を述べる生徒も、道徳の時間には意見をあまり述べず、道徳の時間に対して抵抗感があるのではと危

惧していたが、決してそうではないということが分かった。また「どのような道徳の授業が好きか」という問いには、【表 1】のような結果となった。教師の体験をじっくり聞いたり、自分の将来に学んだことを役立てたりしたいという思いが表れており、これからの自分自身の生き方に関心が強いことがうかがえる。しかし、自分の思いを書いたり発言したりする活動は好んでいない。道徳の時間は、他者と自分を比較したり今までの自分を振り返ったりすることで、ねらいとする価値に迫ることができる。生徒たちが書いたり発言したりする活動を好まない背景には、教師の手立てにも原因があるのではないか。本校教師の『道徳の時間に対する意識』では、「授業に自信がもてず、授業そのものを億劫に感じる」「道徳の時間になると構えてしまい納得できる授業とならない」などの感想も挙げられている。多くの教師が道徳の時間の重要性を認識していても、「何を教えればよいのか」「どう授業すればよいのか」といった悩みを抱えていることも現実にはある。

生徒は意識調査より、道徳の時間に関心をもっていることが分かった。その反面、教師は道徳の時間の在り方に自信をもてないでいる。道徳の時間が道徳教育のかなめとしての役割を果たしていることを再度認識し、道徳の時間における指導の効果が上がるように指導方法を工夫して、生徒が道徳的価値の自覚を深め道徳的実践力を培うように取り組まなければならない。

3 実態に応じた資料選択や分析

(1) 心に響く魅力的な資料選択や分析

道徳の授業で使用する資料は、ねらいとする道徳的価値に関わって「人間の心理・真実」を提供するものである。そうした資料を通じて、生徒は人間としての生き方に触れることができる。そして、生徒は自分の生き方を真剣に考えていくことができる。道徳の時間の指導は、生徒の発達に即し、計画的・発展的に行われるように学年段階に応じ、年間にわたって適切に設定する。年間指導計画は4つの視点によって構成され、23項目の内容はすべて取り上げるが、生徒や学級の実態に応じて必要な指導内容項目を重点的に取り上げることとなる。その際使用される資料は、生徒が道徳的価値について内面的な自覚を深めていくための手掛かりとして、極めて大きな意味をもっている。生徒がねらいに迫るための媒体でもある。

「中学校学習指導要領 解説 道徳編」では、「心に響く資料の選定」の条件として

【表 1 生徒が好む道徳の時間】

項目	人数
先生の体験や思いを聞きたい	22
学習したことを将来に役立てたい	21
感動できる資料で学習したい	16
友だちの考えをたくさん聞きたい	13
自分自身の悩みの解決につなげたい	10
地域の方の話を聞きたい	6
みんなで意見交換をしたい	4
考えたことをたくさん書きたい	3
自分の思いや考えを発表したい	2

以下の6点をあげている。

- ア 人間尊重の精神にかなう資料
- イ ねらいを達成するのにふさわしい資料
- ウ 生徒の興味や関心，発達に応じた資料
- エ 多様な価値観が引き出され深く考えることができる資料
- オ 特定の価値観に偏しない中正な資料
- カ 読み物，視聴覚教材などの特質を生かした資料

【資料2 心に響く資料】

さらに，道徳的価値の内面的な自覚を深めるための条件として，以下の5点をあげている。

- ア 生徒の感性に訴え，豊かな感動を与える資料
- イ 人間の弱さやもろさに向き合い，生きる喜びや勇気を与えられる資料
- ウ 生や死の問題，人間としてよりよく生きることなどを深く考えることができる資料
- エ 体験活動や日常生活等を振り返り，道徳的価値の意義や大切さを考えることができる資料
- オ 多様で発展的な学習活動を可能にする資料

【資料3 道徳的価値の内面的な自覚を深めるための条件】

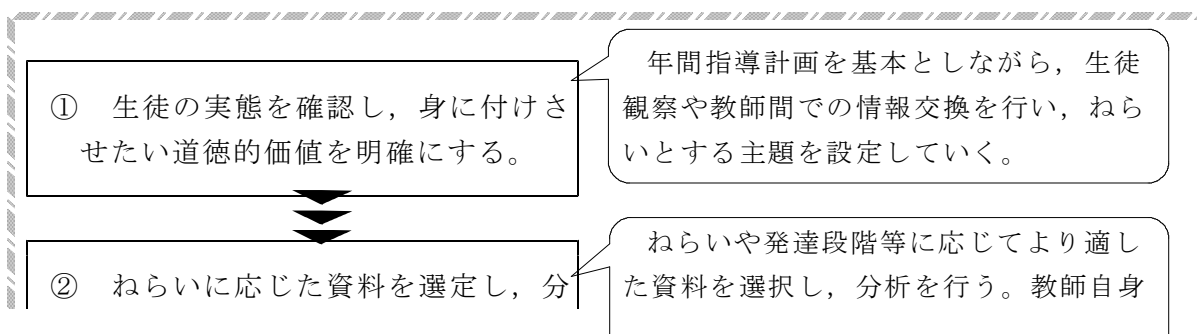
道徳の授業をより充実したものにしていくためには，このようなことに基づいて資料の開発や選定にあたるのが重要である。

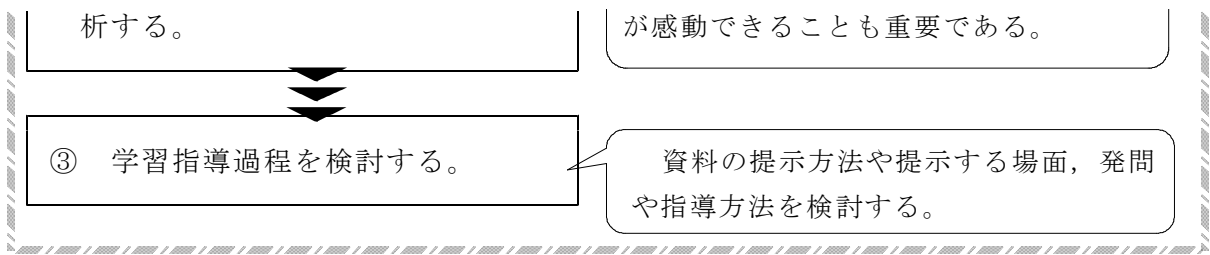
道徳の時間では，読み物資料を扱うことが多く，使用する資料が生徒にどう受け止められるかが授業の在り方に大きく影響する。生徒の心に響き，深い感動を与える資料は，その心に深く刻まれていく。そして，生徒にとって必要なときに思い起こされ，物事に直面したときなどの判断の材料として役立ったり，心の支えとなったりする。また，心に響く魅力的な資料を活用することは，生徒自ら，人としての生活を充実しようとする意欲を喚起し，さらには，生徒の実際の生活に活用されることとなる。

(2) 資料の魅力を引き出す効果的な活用

ア 効果的な資料の活用手順

前述の通り，生徒の心に響き，ねらいに迫るための適切な資料を選択し，資料のよさを生かした効果的な活用は極めて重要である。そこで，読み物資料を効果的に活用するための手順を，以下のようにまとめてみた。





【資料4 効果的な資料の活用手順】

イ 効果的な発問

発問は、学習指導過程において大きな役割があり、生徒の多様な価値観を引き出し、心を揺さぶることが望ましいと考える。発問は正誤を問うたり、建前や理想的な答えを求めたり、行動の仕方のみを問うたりするのではなく、道徳的価値を自分の問題と受け止め、人としての生き方・在り方を探っていくことができるようにする工夫が求められる。生徒から出された意見に対してその根拠を問うたり、互いに話し合える時間を確保したりすることで、よりねらいに迫るための効果的な発問になると考える。

ウ 効果的な資料の活用の実際

上述のア、イをふまえ、資料の魅力を引き出す効果的な活用について、基本的な学習過程（後述 p.7 - 13）に位置付けた。これを基本とし、生徒の実態や資料の特性に応じて取り扱う。

段階	資料活用の意義	資料の魅力を引き出す手立て ※ ①～③は、検証授業で実践を行った。
導入	○ ねらいとする道徳的価値への方向付けをする段階 ・ 主題に対する生徒の興味や関心を高め、ねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。	○ 学習への興味・関心を高めるために動機付けとなるように資料を活用する。 例・ アンケート結果を提示する。～① ・ 写真やビデオ等の視聴覚教材を活用する。
展開 前段	○ 資料をもとにして、ねらいとする道徳的価値の追求・把握をしていく段階	○ 資料の提示を工夫し、道徳的価値の追求・把握をさせる。 例・ 内容に応じて資料を分割して示したり、流れ（話の順番）を入れ替えたりする。～② ・ 場面絵や関係写真など視覚に訴える資料を活用する。 ○ 発問の工夫により、資料の効果を上げるようにする。 例・ 発言の根拠を明らかにすることで、本人や他の生徒の考えを深めさせる。 ・ 少数派の意見にかた入れをしたり、揺さぶりをかけたりする。 ・ 生徒の意見を整理し、自己の価値観を見つめ直す。～③
後段	○ 自己を振り返る段階 ・ 今までの自分の生活や考え方をじっくりと見つめ直し、道徳的価値を自覚する。	○ 展開前段で追求・把握した価値観に照らして、自己を見つめさせる。 例・ 資料の登場人物の生き方を通し、自己を見つめ直す。
終末	○ 様々な資料等の活用を通し、今後の実践意欲をもたせる段階	○ 授業で学習したことを今後の生活の中で生かしていくように工夫する。 例・ 教師の体験談や説話を行う。

<ul style="list-style-type: none"> ねらいとする道徳的価値に対する思いや考えを深めたり広げたりして、実践意欲をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 心のノートに感じたことを書き込む。 生徒作文を活用し、学習内容をより身近に感じさせる。
--	--

【資料5 資料の魅力を引き出す効果的な活用】

以下は、【資料5】をふまえ、実際に学習に取り入れた内容である。内容は、アンケートと結果の提示、資料の分割、価値観の例示の3点と検証授業の実際である。

(ア) アンケート結果の提示

導入段階において、ねらいとする価値への方向付けを図るためにアンケートの調査結果を提示する。

～実践例～

授業の前にアンケートを実施し、導入で結果を提示する。(質問「学習や部活動などの活動について、これまでに悩んだことや今悩んでいることはありませんか。」)

主題名 「やり抜く強い意志」 1 - (3)
資料 「私と部活動」 (道徳教育推進資料 1)

自由記述 「部活動でレギュラーになれない」
「部活動内でみんなの気持ちがぼろぼろになっている。」
「勉強をがんばっても成績が伸びない」 等

導入でアンケート結果を提示したことで、本時のねらいとする価値を生徒に分かりやすく示すことができ、導入の段階から本時の学習で考えていくことをつかませることができた。

また、アンケート結果から、部活動や勉強に悩んでいるのは自分だけではないことや、自分から見たらよい結果を出している仲間もまた悩んでいることに気付かせることもできた。これは、学習を行うにあたって、生徒の気持ちを和らげることにもつながった。

(イ) 資料の分割提示

内容に応じて資料を分割して提示したり、流れ(話の順序)を入れ替えたりする。

～実践例～

資料を分割し、登場人物の心情や行動を予想させることでねらいとする価値により深く迫らせる。

主題名 「役割の自覚」 4 - (1)
資料 「明かりの下の燭台」 「明日をひらく」 東京書籍

～資料の概要～

東京オリンピック女子バレーチームのマネージャーは、本来はプレー選手であったが、マネージャーに転向せざるを得ない状況となる。マネージャー転身を監督から告げられるが、受け入れられない。

発問 「マネージャーをするように言い渡されたとき、どのようなことを考えたのでしょうか。」

主な意見 「バレーをしたい。もうやめてしまおうか。」
「マネージャーならやめようか。それとも、監督の頼みならばがんばってみようか。」

※ 資料の続きを読む。 ～資料の概要～

監督の一言でマネージャーとして選手を支える決意をし、チームのために全力を尽くした。

発問 「マネージャー業の苦難をどんな気持ちで乗り越えたのだろうか。」

読み物資料を授業の展開に沿って分割したり、資料の中心的な場面によって順序の入れ替えをしたりすることは、効果的なものとなるととらえる。さらには、資料の全部を一度で提示しないことは、資料内容（結末）に対する関心を高めることにもつながると考える。

(ウ) 価値観の例示

価値観の例示を行い自己を見つめさせ、よりよい生き方について考えさせる。

～実践例～

価値観の例示を行い、他の意見と自分の意見を比較させる。

主題名 「やり抜く強い意志」 1 - (3)

資料 「私と部活動」 (道徳教育推進資料 1)

～資料の概要～

努力不足から部活動での結果が出せず、ライバルにも先を越され、部活動を続けるかやめるかを葛藤する登場人物。始めはライバルを認めることができなかったが、精一杯練習や試合に取り組むライバルの姿から、再度自分自身も目標に向かっていく。(中学生の作文)

発問 「レギュラーとなったライバルの練習の様子を見て、主人公はどんなことを考えていたのでしょうか。」

出された意見

- A ライバルは試合に勝てるはずがない。
- B 自分のほうが上手なのに。悔しい。
- C もうやる気がなくなった。部活動をやめようか。
- D 自分は努力不足だった。これからまたがんばりたい。

意図的指名を行い、多くの意見を引き出すことで生徒は多様な価値観に触れることができたと考える。このことは、他者理解につながると同時に、より高い道徳的価値について学ぶことができる。また、価値観の例示を行っていくと、生徒は自然に資料から離れ、ねらいとする価値に対して「果たして自分はどうかであったか」というように自己を見つめなおすことができる。ねらいとする価値観に対して自分がどうかであったかを振り返ることで、ねらいとする道徳的価値を内面的に自覚し、将来の生き方を考えるときの支えともなると考える。

(エ) 授業の実際

以上のことをふまえ、資料の効果的な活用に特に焦点を当て、実際に授業を行った。指導案は【資料6】である。生徒と同年代の中学生が実際に書いた作文で、人権問題や人としての生き方等がうかがえる作文である。

1 主題名 差別・偏見の克服

2 ねらい 正義を重んじ、だれに対しても公正・公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努めようとする態度を育てる。〔4－（4）〕

3 資料名 「梅雨に入った日」 第25回全国中学生人権作文コンテスト作文

資料の概要 知的障がいのある兄の生活を通し、自分を見つめる内容の中学生の作文である。
就職活動をこつこつと続けていた兄。その甲斐あって、希望する条件にあった就職先が内定する。筆者も自分のことのように喜ぶ。しかしいったん決まった採用が障がいを理由に取り消さる。兄は不平も言わず、それどころか、就職後の通勤に向けて買った傘を「もったいなかったね」と家族につぶやく。筆者は社会の矛盾を感じ、悔しさや悲しさに涙するとともに、何事にも努力する兄と比べ、自分のふがいなさを実感し、もっと成長したいと述べている。

4 主題設定の理由

○ 本主題は指導内容4－（4）の「正義を重んじ、だれに対しても公正・公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。」ことを主なねらいとしている。

~~~~~ 省 略 ~~~~~

5 学習指導過程

| 段階 | 学習内容や学習活動                                                                          | 指導上の留意点                                                                                                             |
|----|------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入 | 1 アンケートの結果を見る。<br>○ 「不公平な扱いや差別をされていやな思いをしたことはないか。」                                 | ○ 生徒の心情が自由に出せるような雰囲気作りを行う。<br>○ 事前アンケートの結果を知らせ、本時のねらいとする価値につなげるようにする。<br>○ 学習内容を知らせる。                               |
|    | 2 学習内容について知る。                                                                      |                                                                                                                     |
| 展開 | 3 作文を読んで話し合う。<br>○ 筆者であるぼくの気持ちを考える。                                                | ○ 静かな雰囲気を読ませる。また、次の学習につなげるために、筆者の気持ちに焦点をあてる。<br>○ 就職活動で兄に浴びせられる心ない言葉に、弟である筆者も兄と同じようにつらい気持ちであることを感じ取らせる。             |
|    | 前段                                                                                 | ○ 自分のことのように喜ぶ筆者の思いやりの心に注目させる。                                                                                       |
|    | 面接の時に兄が言われた言葉を聞いた僕は、どんな思いだっただろう。<br>・ 兄がかわいそう。<br>・ きちんと分かってほしい。<br>・ 仕方ないのかもしれない。 | ☆ 仲間からの心ない発言や、先輩後輩の関係に悩んでいる生徒の実態を取り上げた。<br>☆ アンケート結果の提示を通し、本時のねらいに関心をもたせるようにした。<br>☆ 中学生が書いた作文を使うことで、資料に関する関心をもたせた。 |
|    | 兄の就職が決まったときの僕は、どんな気持ちだっただろう。<br>・ 本当によかった。<br>・ 分かってくれる人がいる。<br>・ 大丈夫なのかな？         | ☆ 生徒の感性に特に訴えかける場面である。時間を確保し、じっくりと考えさせた。また、多様な意見を引き出すため、意図的指名を行った。                                                   |
|    | 「傘買っちゃってもったいなかったね。」という兄の言葉を聞いたとき、僕の気持ちはどうだっただろう。                                   | ○ 社会に矛盾を感じ、そして、兄の生き方から自分にまだ足りない点をとらえ、心身共に成長したいという筆者の思いを感じ取らせた<br>☆ 意見を例示し、自己の道徳的価値観を見つめられるようにした。                    |



|    |                                                                                                                                         |                                                         |                                                                                                                                                         |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 兄が傷付いてかわいそう。</li> <li>・ ひどい目にあわせて悔しい。</li> <li>・ やっぱり厳しいのだろうか。</li> </ul>                      | い。                                                      | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>☆ 自己を見つめる段階である。資料から離れ、自己を振り返る時間を十分に確保した。また、考えたことを出させ、他者の意見と比較できるようにし、価値観を認識させるようにした。</p> </div> |
| 後段 | <p>4 自分を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>今までの自分が他の人と接するときに、どのような態度をとっていただろう。</p> </div> | <p>○ 今までの自分の周りへの接し方や考え方を振り返り、ねらいとする道徳的価値の内面的な自覚を図る。</p> |                                                                                                                                                         |
| 終末 | <p>5 教師の体験談を聞く。</p>                                                                                                                     | <p>○ 教師の体験談を話し、余韻をもって終わる。</p>                           |                                                                                                                                                         |

〈生徒から出された意見〉

① 中心発問に対する意見

- ・ 兄は就職を断られてすごく悲しいはずなのに、傘の心配をしているのがかわいそうだ。
- ・ 兄は仕事がちゃんとできるかもしれないのに、会社の人は何も分かっていない。
- ・ 何でお兄ちゃんがそんなことを言われたいといけないのだろう。
- ・ 僕がもっと強くなって、兄を守りたい。

② 展開後段の発問に対する意見～自分を振り返る～

- ・ 自分の周りでも差別的なことがあるのに、何も言えないことが悲しいです。私も楽しくないです。これからは積極的に自分で何かをやっていきたいです。
- ・ 学習しながら私も見かけだけで人を判断していたのではないかと思いました。それは差別だと分かっているのに・・・これからはやめたいと思います。
- ・ 叔母には障がいがあります。お店などに行くとジロジロ見られます。私は叔母に今まで通り普通に接していきたいです。
- ・ 私がこの資料のお兄さんだったら、こんなに強く生きていくことはできないと思います。みんな同じ人間だから、みんなが同じように生きていくことができる環境を作らないといけないと思います。

#### 【資料6 資料の効果的な活用及び授業の様子（一部省略）】

生徒は、導入で提示したアンケートの結果に関心をもつことができ、「その気持ち、自分も分かる」という雰囲気を感じられた。また資料も生徒と同年代の中学生が実際に書いたということもあり読みやすく、感情移入を行うことができ、ワークシートにもそれぞれが考えたことをたくさん書くことができた。特に展開後段では、自分の行動や考えを振り返った意見が多く出ていた。

しかし、展開前段では、各発問ともに同じような意見が多く、多様な意見を引き出すことはできなかった。そのために、意見を価値観に応じて例示することが十分にできなかった。

#### 4 思いや考えを伝え合うことを通し、自分の生き方を見つめ直す指導方法の工夫

##### (1) 「思いや考えを伝え合うこと」に関する基本的な考え方

道徳の授業は、資料に描かれている登場人物の生き方を通し、自分をじっくりと見つめる学習の場である。生徒は日常の生活の中で、例えば「時間を守ることは大切なこと」という思いはあるものの、必ずしもその道徳的価値の必要性を十分に理解し、常に実践に結びついているとは言えない。

学習の過程におけるそれぞれの生徒のものの見方や考え方は、決して画一的なもので

はない。それらの様々な考えを、自分自身の意見と比較することで自分自身との対話（自己内対話）が深まり、自分自身の価値観を把握したり見直したりすることができる。他者の思いや考えを通して、道徳的価値を自分の内面から自覚し、道徳的実践力、すなわち人間としてよりよく生きる力を育てることになるととらえる。

## (2) 学習指導過程の工夫

生徒一人一人がねらいとする道徳的価値の自覚を図るために、以下のように、基本的な学習指導過程を設定した。

| 段階       | 各段階のねらい                                   | 主な内容と指導上の留意点                                                                                                                                                                                                                                                     | 主な手立て                                                                                                                       |
|----------|-------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 導入       | 1 主題に対する興味や関心を高め、ねらいとする価値への方向付けを行う。       | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の雰囲気作りを行う。</li> <li>アンケート結果や身近な生活体験など、生徒の興味関心を高めることができるような内容を取り上げる。</li> </ul>                                                                                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>生活体験の活用</li> <li>調査結果の提示</li> <li>視聴覚資料の活用</li> </ul>                                |
| 展開<br>前段 | 2 ねらいとする価値を追求する。                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>資料を効果的に活用する。</li> <li>問題の核心に迫るように発問の吟味（基本発問の数、中心発問の内容など）を行い、登場人物の考え方や心情に深く触れさせる。</li> <li>生徒の発言の根拠に迫る。</li> <li>中心発問に対しては十分に時間を確保し、ねらいとする価値を追求し、把握させるようにする。</li> <li>生徒の多様な考え方や感じ方を引き出し、話し合いを通してより高い価値観に気付かせる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>資料提示の工夫</li> <li>学習形態の工夫</li> <li>発問の工夫</li> <li>板書の工夫</li> <li>ワークシートの活用</li> </ul> |
| 後段       | 3 ねらいとする価値の内面的自覚を図る。                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>より高められた価値観に照らして今までの自分を振り返る。</li> <li>それぞれの振り返りを発表し合うことで、共有化を図る。</li> </ul>                                                                                                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートの活用</li> </ul>                                                                 |
| 終末       | 4 ねらいとする価値に対する思いや考えをまとめたり温めたりして今後の実践につなぐ。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>心に残るように余韻をもって終わることができるようにする。</li> <li>決意表明となったり、価値の押しつけや教師の考えでまとめたりしない。</li> </ul>                                                                                                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>教師の体験談</li> <li>生徒の身近な素材を活用（生徒作文、日記等）</li> </ul>                                     |

### 【資料7 学習指導過程の工夫】

#### ア 学習指導過程の工夫を取り入れた授業の実際

資料 「明かりの下の燭台」 「明日をひらく」 東京書籍

主題名 「役割の自覚」 4－（1）

#### (ア) 展開前段において、資料を使ってねらいとする価値を追求する

本時のねらいに迫るために、生徒の発言に対して深く問うことを手立ての一つとした。具体的な方法としては、生徒から出された発言に対して「なぜ」「どうして」とさらに深く問うことで、様々な道徳的価値を引き出させた。【資料8】その際、自分の価値観を見直し、自分自身を振り返ることにつながるようにした。

| 段階       | 学習活動（手立てに関わる部分はゴシック体）              |                                                |
|----------|------------------------------------|------------------------------------------------|
| 展開<br>前段 | 2 資料を読んで話し合う。                      |                                                |
|          | 3 鈴木さんの気持ちを考える。<br>○ 生徒の発言に対して「なぜ」 | T : 選手からマネージャーに転向するように告げられたとき、どのような気持ちだったでしょう。 |

「どうして」と深く問い、発言の根拠を明らかにする。

鈴木さんはなぜマネージャーを引き受けたのだろう。



バレーや仲間が本当に好きだからです。だから、選手になれなくても、マネージャーとしてバレーに接し、みんなのためにがんばったのだと思います。





- S 1 : やめてしまおう。  
 S 2 : プレーがしたいのにいやだ。  
 S 3 : どうすればよいのか分からない。  
 S 4 : プレイヤーでいたい。  
 T : バレーをしたいよね。マネージャーをやるのなら会社を辞めようと思っているのかもしれないね。でも、バレー自体から離れることを悩んでいるのかもしれないね。  
 S 5 : これからのことを考えてみよう。  
 S 6 : マネージャーとして、仲間のためにがんばろうか。  
 S 7 : マネージャーもバレー部員だ。  
 T : なぜ仲間のためにがんばろうと思うのだろう。  
 S 8 : 鈴木さんは本当にバレーが好きだからだと思います。  
 S 9 : 仲間が大事だからです。

【資料 8 学習指導過程の工夫～発言の根拠を問う（一部省略）】

(イ) 展開後段において自己を見つめる

展開後段は、前段と違い資料から離れて今までの自己を見つめることとなる。前段で資料の登場人物の言動に即して追求した価値に照らして、今までの自分はどうかであったか、これからの自分はどうかありたいのかを考えさせる。時間をかけて自分を振り返らせ発表し、共有化させることで自分の振り返りをさらに深めたり広げたりすることができ、また他者を理解することにもつながる。【資料 9】

| 段階   | 学習活動（手立てに関わる部分はゴシック体）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |  |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 展開後段 | <p>4 これまでの自分を振り返る。</p> <p>○ <b>発表することで、自己理解・他者理解にもつながる。出されたものについては、賞賛し認める。</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>合唱の係で毎日大変だったけれど、学級がまとまり、金賞もとれ、とてもうれしかった。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>T : 係活動などの役目を通して「やってよかった」と感じたときはどんなときですか。<br/>                     S 1 : 先輩の応援をされていて、「応援ありがとうございました」と言われたときにうれしかった。<br/>                     S 2 : 係をされていて、楽しいと感じられるとき。<br/>                     S 3 : 合唱の係をして、学級が一致団結したときに感動した。<br/>                     T : まわりの人の活動を見てどんなことを思いますか。<br/>                     S 4 : 給食の時にいつも机を拭いてくれる A くん感謝したい。<br/>                     S 5 : みんなの人の力で成り立っている。<br/>                     S 6 : 私が気付かないところで活動している人がいる。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;">  <p>一年生の時にはきちんと係ができなかったから、今年も同じ係に立候補した。</p> </div> </div> |  |

【資料 9 学習指導過程の工夫～共有化を行う（一部省略）】

① 学習で学んだことはありますか。

- みんなのためにできることはたくさんある。

- ・ 縁の下の力持ちのような人になりたい。
- ・ これからは係活動など積極的に行い、やってよかったと言えるようにしたいです。
- ・ 自分から「人の役に立ちたい」と思います。
- ・ 自分の役目はもちろんだけど、助け合いながら生活していけるといいと思う。

② 授業に対する生徒の感想

- 発表はできなかったけれど本音を書くことができてよかった。
- 「私もしそういうことになっていたらどうか」と思って本音を出せました。
- 発表はできなかったけれど、他の人の意見と自分の意見を比べていた。
- こういうことは、素直に書いた方が勉強になると書いていた。
- 手を挙げるつもりはなかったけれど、指名されてみんなの前で話すチャンスができて本音を言うことができた。
- 少し不安があって発表をためらった。
- 発表をする自信がなかった。

【資料10 学習指導過程の工夫～生徒の感想～】

(3) 学習活動の工夫

ア 書く活動について

道徳の時間の各段階において「書く活動」を位置付け、資料の登場人物の行為や気持ちを考えたり、自分を振り返ったりすることにつなげた。

—書く活動—

1 事前及び導入の段階

生徒の課題意識を高め、ねらいとする価値を意識する。

例：質問「今、悩んでいることはありませんか。」（ねらいにせまるために、事前にアンケートを行い、結果を導入で活用する。）

2 展開前段の段階

資料の登場人物の行為や気持ち等を書くことにより、道徳的価値について自覚を深める。

例：質問「なぜ、主人公は町ですれ違った祖母に対し、知らん顔をしたのだろう」

3 展開後段の段階

これまでの自分を振り返り、これからの自分の生き方・在り方について考える。

例：「あなたは家族とどのように接していますか。」

書くことは、自分の考えを確かめながら整理する活動であると考える。自分の考えや思いを書くことによって自己の内面を改めて知ることができ、道徳的価値の自覚をより一層深めることになると考える。

特に資料を離れる展開後段において、ねらいとする道徳的価値とのかかわりで自分を見つめる時間を十分にとることは、これまでの自分はどうかであったか、これから自分はどうかありたいかを深く考えさせる手立てとなる。

また、ワークシートの活用は、発表の苦手な生徒にとっては、発表する際の拠り所となり、発表がしやすくなる。さらには、授業後の個々の価値観を把握する授業評価



や、生徒がファイルしていくようにすることで、生徒自身にとって、成長の足跡ともなる。次は、生徒が展開後段において自分自身を振り返った際のワークシートである。

主題 「役割の自覚」 資料名 「明かりの下の燭台」

展開後段において、ねらいとする価値に対してこれまでの自分を振り返り、ワークシートに考えを書いた。この活動により、さらに自分自身を振り返ることができたとともに、他者の行動を振り返る生徒もいた。また、書いたことは共有化するために発表をした。

「ありがとう」とか「サニコー」と言われると、やっばかたな、と思う。  
他の人も感謝されるとうれしいだろうし、照れる人もいる。サニコーってあたりまえだ。

僕の係の種類は、王農土境部です。王農土境部の部長をやっばかたなと思っ  
ます。何生の間も王農土境部だったけど、あまりやっばかたなでなかったのでも  
生でかんぱろうと思っばかたな、王農土境部になりました。

【資料11 生徒の振り返りの様子】

イ 話し合い活動について

道徳の時間における話し合い活動は、話し合うことを通して他の生徒の多様な価値観に触れ、自分の価値観と比較し、さらには自分の価値観を見つめ直すことができる。そこで、生徒同士の話し合い活動を深まりのあるものにするための留意点を、次のように整理した。

- 生徒の実態に即した話し合いのしやすい多様な価値観の引き出せる資料を活用する。
- 自分の価値観を明確にさせるようにする。
- 話し合いの場を工夫する。

【資料12 話し合い活動の留意点】

(ア) 話し合い活動の実践

以下は、話し合い活動の工夫に視点をあてた授業の様子である。

- 1 主題名 「家族愛」 4－(6)  
3 資料名 「一冊のノート」 (道徳教育推進資料 4)

資料の概要 中学生の主人公は、祖母と同居している。共働きの両親に変わって、孫の面倒を見ることを生き甲斐のようにしている祖母だが、認知症の症状が徐々に始  
り、それにより孫との関係がぎくしゃくする。そのような中、孫は祖母の日記の存在を知り、こっそりと見てしまう。日記は、だんだんと物忘れが激しくなる自分を自ら励し、孫が成人するまでは自分が面倒を見たいという思いにあふれていた。日記につづられた祖母の思いに触れたことで、孫は祖母に対して、また優しい気持ちを取り戻す。



5 学習指導過程

| 段階       | 学習内容や学習活動                                          | 指導上の留意点                                                                      |
|----------|----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 導入       | 1 高齢者を撮った写真を見て写真から受ける印象を出し合う。                      | ○ 生徒の心情が自由に出せるような雰囲気作りを行う。                                                   |
|          | 2 本時の学習内容について知る。                                   | ○ 高齢者の写真を数枚提示する。しわやシミの多い顔など年を取るにつれ体に表れる変化を生徒がどのようにとらえているのか、写真を通して印象を出し合わせたい。 |
| 展開<br>前段 | 3 資料を読み話し合う。                                       |                                                                              |
|          | 問題集がなくなったとき、主人公は祖母に対してどのようなことを思ったのだろう。             | ○ 片付けなかった自分のことよりも、祖母のせいにする主人公の心情を考えさせたい。                                     |
|          | 主人公は祖母と町で会ったとき、なぜ知らん顔をしたのだろう。                      | ○ 季節外れの姿で大きなカゴを持った祖母を、自分の家族だと思われたくない主人公の心情を考えさせる。                            |
|          | 友達からの伝言を伝え忘れた祖母を激しくののしった主人公は、祖母に対してどのような思いだったのだろう。 | ○ それぞれの考えの根拠を問うたり、少数の意見にかた入れをし、多数の意見に揺さぶりをかけたりして考えを深めさせる。                    |
|          | だまって祖母の横にしゃがみ草取りを始めたとき、心の中ではどんなことを言っていたのだろう。       | ○ 祖母の書いたノートの記事を指名した生徒に読ませることで、主人公の心情をより深く考えさせることにつなげたい。                      |
| 後段       | 4 自分を振り返る。                                         | ○ 自分を振り返る時間を十分に確保し、家族について考えさせる。                                              |
|          | あなたにとって家族とはどのようなものですか。また、どのように接していますか。             |                                                                              |

導入  
心情を自由に発言できるように、雰囲気作りを行う。  
T：写真の人たちから、どんな印象を受けますか。  
S：おばあちゃん。  
S：お年寄りの夫婦だ。  
S：顔にしわがたくさんある。

展開前段 発問2  
主人公の考え方や行動を通して、自分自身の生き方を見つめる。  
T：おばあさんとすれ違うときに、なぜ知らん顔をしたのだろう。  
S：変な格好だから。  
S：おばあさんだと知られたくない。

展開前段 発問3  
出された意見に対し、揺さぶりをかける。  
T：なぜ、祖母を激しくののしったのだろう。  
S：友達に悪い。  
S：もう我慢できない  
T：小さい頃から面倒を見てくれてきたよね。  
S：言い過ぎたのかもしれない。  
S：病気だからしょうがないのに言い過ぎた。  
S：頭では分かっているけれど、つい言ってしまった。

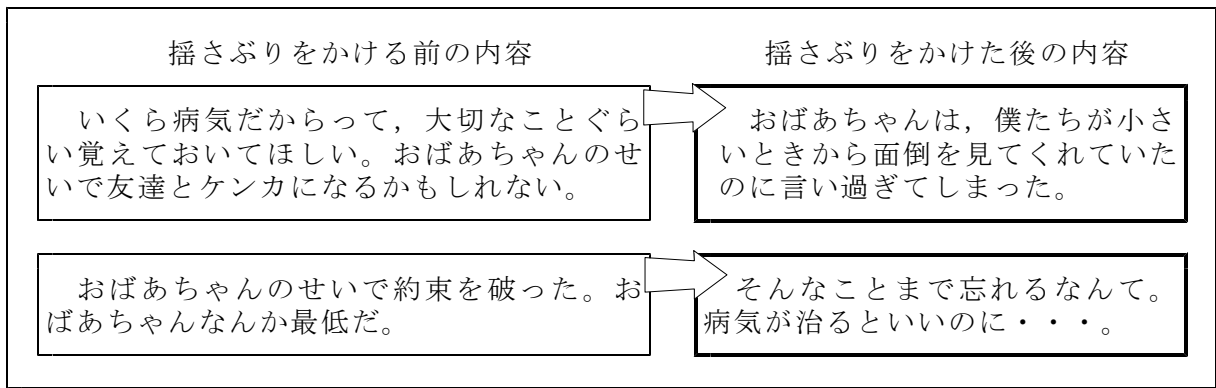
T：家族はどんな存在？  
S：家族が一番安らげる。  
S：絶対に大切な人たち。



【資料13 話し合い活動の工夫（一部省略）】

(1) 授業を通しての生徒の変容の様子

中心発問において揺さぶりをかけたところ、自分の考えを見直したり、他の生徒の考えを聞いて意見が変わった生徒もいる。また、考えが変わった場合は、ワークシートを書き換えてもよいという指示により、【資料14】のような書き換えも見られた。



【資料14 揺さぶりによる生徒の変容】

中心発問において自己を振り返ることができた生徒は、展開後段において、自分自身が自分の祖母にどのように接していたかを見つめ直すことができている。【資料15】

ぼくは、おばあちゃんにきつい言葉を書いて、おばあちゃんに謝罪の言葉を言わなかった。おばあちゃんにきつい言葉を書いておいた。おばあちゃんにきつい言葉を書いておいた。おばあちゃんにきつい言葉を書いておいた。

登場人物の行動から、今までの自分を振り返ることができた。

授業後の「生活の記録（日記）」より

今日の授業はジーンと感動してしまいました。私のおばあちゃんは大丈夫だけど、記憶力の低下はまだ治せない病気ですごく大変だと思います。孫の気持ちも分からなくはないけれど、もう少しおばあちゃんに優しくしてほしいです。最後は仲よくなれてよかったです。

【資料15 自己を見つめての記述～展開後段及び授業後～】

発達段階ということもあり、家族間では自己中心的な態度をとっている生徒も少なくはないが、家族に対する思いや接し方が学習を通して変容した生徒もいる。2回の授業とともに、展開後段において、「あなたにとって家族とはどのような存在ですか。」という発問を行った。生徒の中には、授業中の発言やワークシートの記述内容、また生活の記録（日記）等から、変容を感じ取れたものも少なくはない。【資料16】は、変容が見られたワークシートの記述内容の一部である。

発問 「あなたにとって家族とはどのような存在ですか。」  
(左が6月、右が11月の授業のワークシート)

抽出生徒A

|                                                |   |                                               |
|------------------------------------------------|---|-----------------------------------------------|
| どうして家族に対して優しく接することができないのか？と毎日思っている。私はそういう性格だから | ➡ | 私は家族が大好きで、自分が悪いことをしたときや、困っているときには助けられるのがいい存在。 |
|------------------------------------------------|---|-----------------------------------------------|

抽出生徒B

|                                                         |   |                                                         |
|---------------------------------------------------------|---|---------------------------------------------------------|
| 今までは家族と普通に接していた。理由は、いやでも接しているからと、よく接しているからと、普通に接していたから。 | ➡ | 私にとって家族とは絶対になくてはならない存在。ときどき、えいとか思っているけれど、この世の中で一番大切なもの。 |
|---------------------------------------------------------|---|---------------------------------------------------------|

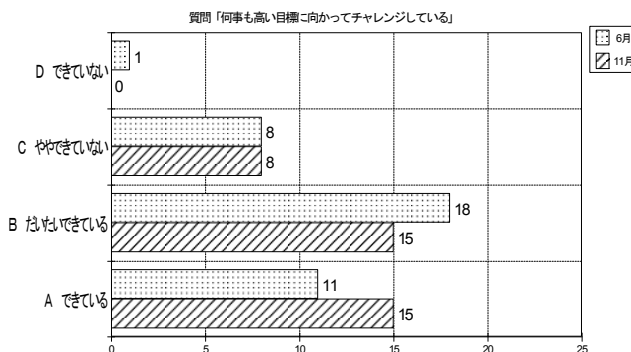
【資料16 ワークシートに見られる変容の様子】

## 5 実態調査に見られる変容

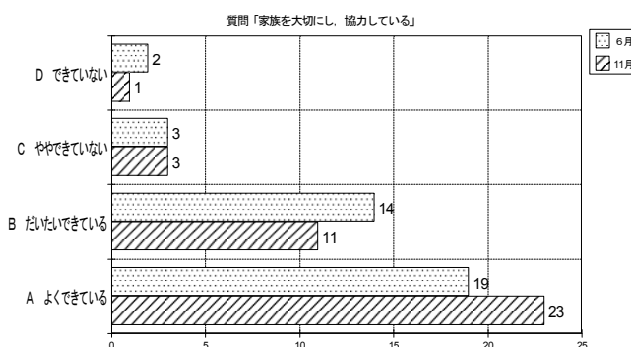
### (1) 内容項目に関する意識調査

6月のアンケート結果から生徒の実態をふまえ、学級担任との相談により道徳の時間における重点指導内容項目を、1-(2)「強い意志」と4-(6)「家族愛」の2項目と設定し、検証授業で扱った。【グラフ3】【グラフ4】は、1回目と2回目のアンケート結果の比較である。(グラフ中の単位は人)

2項目ともわずかではあるが「よくできている」と回答した生徒の数が増加している。また、授業中の意見やワークシートの記述、生活の記録(日記)の様子から、価値観が変化していることも分かる。道徳の時間はもちろん、各教科をはじめとした全教育活動を通して、道徳教育を進めていくことで、今後さらに生徒の道徳的実践力が高まると考える。



【グラフ3】「何事も高い目標に向かって努力している」



【グラフ4】「家族を大切に、協力している」

### (2) 道徳の時間に関する意識調査

前述の「道徳に関する意識調査の変容」とあわせ、道徳の時間に関するアンケートも実施した。第1回と第2回のアンケートと比較すると、【表2】の通りである。

6月の調査同様、多くの生徒が道徳の時間を楽しみにしている。本研究のねらいである「生徒の心に響く資料」を取り入れることに関しては、特に多数の生徒がそれを望んでいることが分かった。授業後の感想等でも「資料を読んで涙が出そうになった。」「また、あのような話を道徳で取り上げてほしい。」といったような感想も、多くの生徒が書いている。前にも述べたように、生徒の心に響き深い感動を与える資料は、生徒の心に刻まれて、生徒の生き方の示唆ともなる。また、感動できる資料を活用することで、授業への関心も高まる。生徒が感動できる資料の活用は、大変意義深いことが分かった。

もう一つのねらいである「思いや考えを伝え合う」という点について見てみると「友達のことをたくさん聞きたい」と考えている生徒が増えた反面、自分の思いを発表したい」と考えている生徒はあまり増加していない。

多くの生徒が書く活動においては、今までの振り返ったり、これからの自分の生き方・在り方を見つめたりすることが十分にできているが、その考えや思いを積極的

【表2】生徒が好む道徳の時間

| 項目               | 6月  | 11月 |
|------------------|-----|-----|
| 先生の体験や思いを聞きたい    | 22人 | 25人 |
| 学習したことを将来に役立てたい  | 21人 | 13人 |
| 感動できる資料で学習したい    | 16人 | 26人 |
| 友だちの考えをたくさん聞きたい  | 13人 | 17人 |
| 自分自身の悩みの解決につなげたい | 10人 | 8人  |
| 地域の方の話を聞きたい      | 6人  | 0人  |
| みんなで意見交換をしたい     | 4人  | 5人  |
| 考えたことをたくさん書きたい   | 3人  | 6人  |
| 自分の思いや考えを発表したい   | 2人  | 3人  |

に出し合えるまでには至っていないと考える。

意図的指名を行えば、ほとんどの生徒は自分の思いや考えを述べるができる。授業後の調査でも、「考えはあったが、みんなの前で言う自信がなかった。」と感想を述べている生徒も少なくはない。中学生という発達段階もあるだろうが、考えや思いが出し合えるようにさらなる手立てが必要である。

## VII 研究の成果と課題

### 1 成果

- 生徒の心に響く資料を選定し活用することで、主人公と自分をより深く重ね合わせることができ、ねらいとする道徳的価値も深めることができた。また、そのような資料を取り入れたことで、道徳の時間を楽しみとする生徒の増加にもつながった。
- 事前のアンケートを活用したり、資料の分割提示、価値観の例示等を行ったりしたことで、より効果的な資料活用ができることが分かった。
- 展開前段の中心発問や、展開後段で自分を振り返る時間を十分に確保し、さらには、他の生徒との話し合いを通して、生徒は今までの自分を見つめたり、これからの生き方や在り方を考えることができた。このような姿は、生徒の道徳的実践力の育成にもなっていると思われる。
- 書く活動の時間を確保したことで、生徒は改めて自分を見つめ直すことができた。また、ワークシートを支えとして、発表ができるようになった生徒も見られ、効果があった。

### 2 課題

- 生徒が自分の思いや考えを自由に発言できるような雰囲気や、生徒指導の三機能を取り入れるなどして、全教育活動の中で作り上げていくことが重要である。活発な意見交換により、自己理解や他者理解に結びつき、道徳的価値の追求も深まるであろう。
- 生徒のワークシート等の授業の記録を計画的に蓄積していくことで、生徒の変容を知ることにつながり評価にも活用できる。
- 新学習指導にも述べてあるように、教材の充実、体験活動の充実、家庭や地域との交流等もふまえた道徳の時間を作り上げていきたい。

### —— 参 考 文 献 ——

- 文部省 「中学校学習指導要領（平成10年12月）解説 道徳編」  
文部科学省 「中学校 心に響き、共に未来を拓く道徳教育の展開」  
文部科学省 「小学校 心に響き、共に未来を拓く道徳教育の展開」  
宮崎県教育委員会 「学校教育を中心とした宮崎の創造プラン 宮崎ならではの教育」  
瀬戸 真 編者（1989年2月）「自己を見つめる道徳の時間」（新道徳教育全集2） 文溪堂  
平成18年度 第32回九州地区道徳研究大会 第31回宮崎県小・中学校道徳研究大会研究集録  
鹿児島県総合教育センター（平成19年5月発行） 「通巻第1549号 指導資料 道徳 第29号」

〈研究実践校〉 三股町立三股中学校